

AIに思う 不便利と成長

■ 山形市 黒沼貞志 79歳

最近では人工知能（AI）に関わるツールの進化が加速しているように思えます。技術の進化を止められないことは自明ですから、便利さに潜むリスクが気にかかり、これまでも幾つかの手段を用いて発信しています。

身近な例を一つ挙げてみます。車社会において雪国では道路の除雪が必需ですが、一方で高齢者の住宅や敷地では間口に残される堅雪の除去という苦しみを生

指摘の要点としては次のようになります。一つが技術の進化は止まらないし、止められないことです。大事なことは私たちの使い

次第といえます。

二つ目が便利さは大切な何かを私たちから奪っているかもしれないし、不

が意外な恩恵をもたらしているかもしれないということです。

身近な例を一つ挙げてみ

ます。車社会において雪国

では道路の除雪が必需です

が、一方で高齢者の住宅や

敷地では間口に残される堅

雪の除去という苦しみを生

んでいることに気付かされ
ます。

これは便利さの中に潜む
リスクのサンプルではない
でしょうか？

言い直すなら、八十路寸
前の私には次のような考え
が浮かんできます。

人は生きている間に成長
へのプロセスを楽しむ生き
物でもあります。もしそう

であるなら、一見面倒にも
見える手間や時間を費やす
ことをいとわずに、発見す
る楽しみを放棄せずに暮ら
したいものです。

つまるところ、過ぎたる
便利さに潜む危うさに注意
を払いながら、不便利さの
中にも人間味を見いだす努
力を惜しまないことが肝要
なのかもしれません。

やれんかん(2026.9.10)

